

第二回 市長対談 写真家 松原豊氏



5月23日、美里町三郷に移住し写真家として活動する松原豊さんを前葉泰幸市長が訪ね、写真家としての活動や地域での暮らしについてお話を伺いました。

松原豊氏プロフィール 津市美里町三郷在住。1967年津市生まれ。専門学校名古屋ビジュアルアーツ写真学科卒業後、撮影アシスタントなどを経て独立。三重県内を中心に活動する傍ら、村を記憶する写真師としての撮影をライフワークとする。(社)日本写真家協会会員。

村の景色に憧れて

市長 美里には、昔からずっとお住まいなんですか。

松原 いいえ。移住したんです。

市長 美里を気に入られた理由は。

松原 移住先としていくつか候補があったんですが、古い家と周りの景観が気に入り、ここにしました。



café Hibicoreの囲炉裏端で写真集について語る松原さんと前葉市長

市長 家の中には囲炉裏などもあって、とても素敵なおところですね。

震災半年後に被災地へ

市長 松原さんが、東日本大震災の被災地で撮影した写真が「生きる 東日本大震災から1年」(新潮社刊)という写真集に掲載されていると伺いましたが。

松原 この写真集には、日本写真家協会の写真家たちが撮影した写真を中心に掲載されているのですが、私が震災から半年後の昨年夏に岩手県大槌町を訪れた際、避難所となっていた体育館がちょうど閉じられようとしているときの風景

を写したのも入っています。
市長 避難所が閉じられる時ということは、最後のお一人しか残っておられなかったとか。
松原 そうなんです。たまたまその方と前日お会いして、避難所である体育館を翌日に出られると聞き、ぜひ写真を撮らせて欲しいという話になったんです。

市長 被災地の写真を見ますと、大きな災害だったんだとあらためて実感します。そういう中で最後の避難者となったこの方だけが写る写真を見ると、以前この場所には、多くの皆さんが避難していたんだということが目に浮かぶ、そんな写真ですね。

松原 体育館の中は、物ともきれいに片付けられているんですが、壁には「頑張れ大槌」など、たくさん寄せ書きが書かれ、人々の生活が感じられる場所でした。

市長 私も昨年6月に被災地の宮城県を訪問し、実際に河口の堤防が損壊している現場を見てきました。

私たちが暮らす津市にも南北20キロ続く海岸があります。この海岸にある堤防がどんな地震でも絶対に大丈夫かと言われると必ずしもそうとは言いきれませんが。実際に現地を見て、想像力を逞しくして災害に備えなければいけないと実感しました。

松原 そうですね。自然は美しいですが、逆にものすごい力を持っているんだと感じました。



復興へと進むこれからの被災地の姿も写真に収めたいと語る松原さん



美里図書館や三重県内の図書館で行われた、松原さんの写真展「大槌町/2011夏・2012冬」

市長 この写真集が海外で展示されると聞いたのですが。

松原 9月18日から23日までドイツのケルンで行われる世界最大の映像見本市「フォトキナ2012」の会場で展示されることになりました。

市長 世界中の人に写真展を見ていただいて、災害に対応するにはどういうふうにするか、もっと言えば、人の力って何なんだろうということを考えるきっかけになれば良いですね。

松原 本当にそう思いますね。

人の流れが風を生む

市長 そして、松原さんといえは、村の面影が残る風景を集めた写真集「村の記憶」(月兎舎刊)ですね。特に私が印象



©松原豊

「村の記憶」(著者・撮影/松原豊、発行/月兎舎)に収められている闇夜に行われる祭のシーン

に残ったのは闇夜で話をしている1枚なんです。
松原 この写真は、美里地域で夏の夜に行われる男だけが集まるお祭りの風景なんです。

市長 闇夜に浮かぶ祭りの様子が、何か神秘的な感じがしますね。松原さんは、地元でもいろいろな活動をされていると伺っていますが、地域の皆さんとのコミュニケーションはどうですか。

松原 移住して8年近くになるのですが、地域のことなどようやく少し分かってきたところです。

市長 地域のことは地域の人たちで決めていこうという雰囲気があって、ある種のしきたりだとか決めごとだとかがあるわけなんですか。

松原 僕らは、もともと美里に住んでいたわけではないので、地域の皆さんとの協働性というものを大事にしていきたいと思っています。

市長 他の地域から美里へ戻ってこられたり、移住されたりすることで、地域に新しい息吹が吹き込まれるのではないかなと思うんですが。

松原 そういふ人の動きというのは、風を生むんじゃないかと思っています。小さいことで構わないので、その風がいろんなところで数多く生まれてくると、地域のエネルギーにつながると思いますね。

ふるさとは「つながり」

松原 私から市長にお聞きしたいのですが、「ふるさと」とは何だと思いますか。

市長 私は「つながり」だと思います。それはもちろん、土地とつながっているということもありますが、人とのネッ

トワークのようなつながり、それから、1つ1つの風景とのつながりみたいなのがあるのがふるさとだなと。

松原 僕も、人と人とのつながりというのは非常に大きいんじゃないかなと思っています。同級生に、たまに会ったりすると「元気か」と、たった一言なんですけど、そういうことがお互いを確認してるということだと思うんですね。さらに高齢者が増える中で、ちょっと声を掛ける、そういう確認が取れることが大切だと思いますね。



棚田や集落など、日本の原風景が収められている「村の記憶」

市長 自分たちと同じ世代のつながり、あと世代を超えた、二世帯、三世帯のつながりを大事にしていくような、そんなふるさとを創っていきなと、そういうふるさとであればいいなと思いますね。

松原 そうですね。

市長 今日は、自然豊かで緑に囲まれたご自宅で、写真家としての活動や美里町での暮らしについてお話を伺いました。これからも津市の素敵な写真を撮り続けてください。どうもありがとうございました。

松原 ありがとうございました。

◆お知らせ◆
ケーブルテレビ津市行政情報番組では、本紙で掲載した対談を7月1日(日)~7日(土)に放送します。また、津市ホームページ「市長対談」からもご覧いただけます。